

広島アピール

第2回世界平和連帯都市市長会議に参集したわれわれ世界27か国114都市の代表は、1989年8月4日から6日まで、世界最初の被爆地広島において、「核兵器廃絶を目指して一核時代における都市の役割」を基調テーマにさまざまな角度から討議し、活発な意見交換を行った。

同時に、44年前の広島の前爆被爆の実相を見聞し、今再び核戦争が勃発すれば、全人類の破滅と、この麗しい地球が壊滅することを予見した。また、平和記念公園で執り行われた平和記念式典に参列し、ともに原爆死没者の冥福を祈るとともに、1939年9月のポーランド侵攻に始まる第2次世界大戦で失われた多くの戦争犠牲者を悼み、世界恒久平和の実現を強く祈念した。

顧みれば、1985年8月、われわれ一同が広島に集い、核兵器の無い平和な世界の創造に向けて共通の決意を確認して以来、4年が経過した。この間、多くの都市が新たに連帯に賛同し、国際世論の形成に大きな貢献をした。歴史的に評価すべき米ソ中距離核戦力全廃条約の締結、第3回国連軍縮特別総会の開催、米ソ包括的軍縮交渉など、国際世論の高まりを背景に、世界平和の実現に向けて勇気づけられる進展が図られた。われわれはこの成果を決して逆戻りさせてはならない。

しかしながら、度重なる核実験の強行や、生物・化学兵器の拡散に見られるように軍備体系の近代化が急速に進み、軍事支出は異常に膨大化する一方、飢餓、貧困、人権抑圧、さらには地球規模での環境破壊等の諸問題は、未解決のまま次の世紀に先送りされようとしている。

思想、信条、体制の相違にかかわらず、ここ広島に集まったわれわれ世界平和連帯都市市長会議は、われわれの住む地球と人類が直面している現実を認識し、世界の恒久平和達成のために次のことを訴える。

- 1 世界の人々、なかんずく各国の指導者は、広島・長崎の被爆地を訪れ、被爆の実相を知る努力をすること。
- 2 世界の都市は、次代を担う青少年の平和教育と市民の平和意識の高揚に積極的に取り組むこと。
- 3 核保有国を含むすべての国は、核実験を即時全面的に禁止すること。
- 4 米国及びソ連は、本年6月19日からジュネーブで再開された包括的軍縮交渉の成功に向けて理性をもって取り組み、戦略核兵器の半減をただちに達成し、少なくとも今世紀中には核兵器の全廃を実現すること。
- 5 世界各国は、生物・化学兵器の廃止と、通常兵器及び兵力の削減、さらには全面完全軍縮の実現に努力すること。
- 6 世界各国は、飢餓、貧困、人権抑圧、環境破壊等の諸問題の解決のため、国連を中心に協調して取り組むこと。
- 7 平和こそが、政治の最高の目標であり、民主主義を確立し、武力による紛争をただちに停止すること。

1989年8月6日

第2回世界平和連帯都市市長会議